

フィリピン

ビコール大学
留学に関する報告

高知大学
総合人間自然科学研究科
農学専攻

滞在期間 2009年10月～2010年1月

○滞在期間

2009年10月～2010年1月

○滞在场所

ビコール大学（フィリピン）

○感想

「ビコール大学留学」

これは私の大学・大学院で得たことの集大成だったと言えます。楽しかっただけではいからこそ、心から行って良かったと思えることです。支えてくださった多くの方々に感謝の気持ちをこめ、私の体験をお伝えします。

1. ビコール大学との出会い ～留学までの道～ -----

大学2年の夏、タイで行なわれた「海外農林水産実習」を受講しました。高知大学の学生12名、そして姉妹校であるタイのカセサート大学とコンケン大学の学生らと一緒に、2週間タイの農林漁業や歴史を学びました。そこで私は今の日本の暮らしは海外の自然を変化させた上でなりたっているのだと実感し、海外に興味を持つようになりました。大学3年の夏にはマレーシアのエコツアーに参加し、野生動物と少数民族の保護について学びました。

もっと海外、特に古くから日本と関わりのあるアジアについて知りたい、異文化交流をしたいと考えていた私は、高知大学の黒潮圏海洋科学研究科と出会いました。そして大学4年の夏には、フィリピンのビコール大学で行なわれていた「藻場と地球温暖化」の調査に参加させていただくことができました。高知大学と比べ設備は整っていないし、インフラも不十分。けれど明るく前向きな学生と先生方、そして高知と同じ暑い日ざしのビコール大学に私は引き寄せられました。大学院1年の夏、フィリピンの海洋保護区（MPA）の調査で再びビコールを訪れました。楽しむ時は楽しみ、一生懸命さは忘れない、家族や仲間を大切にするビコールの人々と過ごすうちに、私の心にはビコールに魅了されました。

その頃私は修士課程の研究で、高知県土佐清水市の特産品である宗田節（そうだぶし）が持つアレルギー抑制効果について研究をすると同時に、土佐清水市と宗田節との関わりについても調査していました。宗田節はかつお節の一種で原料にマルソウダを使用しています。高知とビコールは同じ黒潮の恵みを受けた漁業が盛んで、産業や食生活にカツオは深い関わりを持っています。そこで私は、高知とビコールのかつお事情に疑問を持つようになりました。かつお節のような、何かカツオを使った加工品があるのか

もしれない、黒潮の出発であるビコールはカツオとどのように関わっているのだろう、ビコールに留学してカツオについて調べてみたい。土佐の暑い日差しと同時に私の心も熱くなりました。

諸岡先生、大谷先生、黒潮圏の諸先生方、そしてビコール大学の学長はじめ、ニアベス先生、ペレア先生のお力添えのもとで、私の熱い思いは大学院2年の秋に実現することになりました。しかし、ビコール大学への留学を希望したのが大学院2年の4月、正式に決定したのが7月、そして出発が10月と非常に短い期間でした。その間、さらなる英語力の向上やビザの取得だけでなく、修士の研究のまとめや留学の際の奨学金の取得など、準備で大変忙しい毎日となりました。特にビザに関しては、ビコール大学側も分かっていなかったため、東京や大阪のフィリピン大使館や総領事館へ行かなければいけませんでした。もっと効率の良い方法があったかと思いますが、とにかく無我夢中だったように思います。思うように準備が思うようにいかずに歯がゆい思いもしましたが、その度に「自分で決めたから言い訳しない」と必死に言い聞かせていきました。

2. ビコール大学の様子～私の一日～ -----

私はビコール大学の中のタバコキャンパスに滞在しました。ここは、教育、看護、水産、食品化学などが学べるキャンパスです。高知大学と協定を結んでおり、高知大学とビコール大学の共通のコラボレーションオフィスがキャンパス内にあります。このオフィスは宿泊施設も整えられているため、私はここで寝泊り、研究をしました。昼間は他の学生も使用しますが、夜は1人のため初めはとても心細い思いをしました。

朝は7時に起床します。フィリピンの人は早起きで、町は朝市や食堂で早朝から賑わいます。前日に買ったパンやシリアルをオフィスで食べて朝食を済ませることもありますが、近くの食堂に行くこともあります。8時過ぎにはオフィスで研究を行う修士過程のマリアがやってきます。マリアは私の大の親友で、留学中は大変お世話になりました。平日は9時から講義に行き、学部生と一緒に英語や水産資源管理などの講義を受けます。講義は全て英語ですが、突然タガログ語やビコール語になったりもします。また、フィリピンではミリエンダと呼ばれるおやつがあります。スナックやバナナを焼いたものが主ですが、おやつとは思えない量のパスタやパンを食べたりします。講義の空き時間や休み時間は食堂やオフィス皆、おしゃべりをしながらのミリエンダタイムとなります。昼食は学内や近くの食堂で食べ、午後の講義に行きます。6時には講義が終わるので、暗くなる前に買い物等をしてオフィスで食べたりします。休日は修士過程の授業があります。人数も少なく、プレゼン発表など実践的な内容となります。また、夜や講義の空き時間は図書館で調べものをしたり、ビコールのカツオ事情について街で調査をしたりしました。

私が初めてのタバコキャンパスに来た留学生であること、学部から修士まで学部を横断して講義を受けていること、私の「ちか」という名前がフィリピンでは「おしゃべり」という意味であり覚えやすかったことなどから、キャンパスで目立つ存在となった私は、いつもたくさん友人がいました。空き時間に友人とおしゃべりをしたり、休日は友人と海に遊びにいたり、買い物をしたりと、オフィスで1人で過ごす夜以外、寂しい思いをしたことはありませんでした。

3. 留学による成果 -----

3ヶ月の留学中、私は日本の伝統的な調味料、「かつお節」の紹介と、ビコールのカツオを使いかつお節を作った過程とその分析の研究結果を、大学の先生方や学生の前で発表する機会を2回与えていただきました。ビコール大学の多くの先生方や大学関係者が聴いてくださいました。100人を超える人数の前で発表することは大変緊張し、プレッシャーを感じました。特に、質疑応答はその内容予想ができない上に、英語の内容を理解できるか、伝えられるかと不安でした。しかし、発表と質疑応答終了後の大きな拍手にとってもホッとしました。自分の思いや成果をいかに分かりやすく伝えることができるか、それを英語で伝える力、理解する力が試され、留学を通じて自分のものにしていくことができたのだと思います。

また、留学中に、高知大学での研究の一部と今回の留学の調査をまとめた「宗田節から国際協力を考える～黒潮の恵みの分かち合い～」という論文をまとめました。どうしてビコールにはかつお節のようなカツオの加工品がないのか、ビコールの人にとってカツオはどのような存在なのだろうという私の疑問に、私の独自の調査だけでなく、ビコール大学の先生方が協力してくださり、漁師さんや水産研究機関で働く方の話も聞くことができました。それをヤンマー株式会社が主催するコンテストに応募したところ、大賞に次ぐ優秀賞を受賞することができました。自分の思いや成果を形として著名な先生方が認めてくださったことに、大きな喜びを感じました。

4. 忘れられない出来事 -----

12月上旬、ビコール地方のシンボルであるマヨン火山が活発化しました。連日ニュースで流れ、国内のみならず世界中でその様子が報道されました。日本の外務省はビコールへの渡航を控えるよう伝え、私にも直接外務省から安否確認の連絡がありました。日に日に噴火に向けて大きな煙を噴出す火山に、私は一人うろたえました。高知大の先生方や関係者をはじめ、家族からも不安の声があり、私も帰国すべきか迷いました。しかし、そんな私の不安をよそにビコール大学の先生方や友人は「タバコキャンパスまで被害が及ぶことは無いから安心しなさい」と口をそろえ、タバコの町もいつもと変わらず

ず活気に満ちていました。悩んだ末、開き直って予定通り滞在することにしました。この間、ビコール大学が被災者を励ますためにクリスマス会を開催したり、噴火しようとするマヨンに近くで見る展望台に行ったりと、めったにできない経験をしました。幸いにも、年が明けた頃にはマヨンの活動も収まり、事なきを得ることができました。マヨンの噴火に負けずに最後まで留学生活を送りたいという私の熱い思いに、マヨンの溶岩も驚いて引っ込んでしまったことに、本当にホッとしました。今思い返すと、マヨン噴火による日本からの帰国勧告は、東日本大震災の後に日本で学ぶ外国人留学生が一斉に帰国したことに似ていたと思います。過激報道するメディアが外国人の不安を掻き立て、誤解を生んでしまう場合もあるのではと感じます。(これは私が無事に帰国したからこそ言えることだと思います)

5. 留学を終えて -----

帰国早々、コンテストの授賞式と修士論文発表を慌しく終え、3ヵ月後には社会人になりました。きっちり真面目な日本社会はフィリピンとは大きく違います。社会人2年目の今、留学の日々を思い返すと、あの頃の熱い気持ちがよみがえってきます。

日本人1人、前例のない交換留学を行なうにあたり、ビザや学費など問題が次々にできました。考え方や文化が違う中で、フィリピン流になるべき部分と、日本人として持ち続けるべき部分が分からずに悩んだ時もありました。日常会話は皆、タガログ語やビコール語で行なっていたため、フィリピン人が二人集まると私がいても英語で話すことをしようとせず、切なさを感じることもありました。周りの迷惑を気にせず、自由に楽しく暮らし、時間を守らないフィリピンの風土にイライラしてしまう時もありました。しかし、家族を大切にし、いつもポジティブに考える明るいビコールの仲間にも囲まれ、かけがえのない貴重な経験をすることができました。また、多くの友人を作ることができました。楽しいだけではなかったからこそ、この留学が自信になり、心から行ってよかったと思えるのだと思います。この思い出は誰にも渡したくないと思うからこそ、この思いを1人でも多くの後輩に得て欲しいと思います。

最後になりましたが、留学にあたりお世話になった高知大学、ビコール大学、そしていつも温かく見守ってくれた家族に感謝します。ありがとうございました。



タバコキャンパスでの成果発表



レガスピキャンパスでの成果発表①



レガスピキャンパスでの成果発表②



お世話になった Dr.Pelea とマリア



先生とクラスメイト



マヨン火山噴火の避難者とのクリスマス会



ビコール大学の学長、教育長、Dr.Pelea タバコキャンパスの学長の Dr.Nieves

番外編



☆ ヤンマー優秀賞☆



アイソンさん family



ぬいぐるみいっぱいアイソンさんのお宅